令和元年度　寄附講座にかかる評価報告

寄附講座は、本学が自主性、主体性を持ちながら、研究・診療・教育の活動を行っている一方で、寄附者からの寄附金を財源としていることから、講座運営の透明性や研究活動の実績、成果を求められております。

このことから、毎年、活動報告書や成果報告会において報告を受け、寄附者や外部有識者で構成する寄附講座アドバイザーなどにより、各講座の活動に対して評価を行い、適切でより良い講座運営が図れるよう取組みを進めております。

１　評価の概要

寄附講座にかかる評価は、各講座から提出された研究活動報告書・診療実績報告書・教育活動報告書をもとに、寄附者や寄附講座アドバイザーなどの評価を踏まえ、まとめたものです。

（１）評価者

①寄附者（１７団体　※辞退者を除く）

②寄附講座アドバイザー（６名）

公立大学法人会津大学　理事　岩瀬次郎　氏
公益財団法人福島県産業振興センター　理事長　鈴木清昭　氏
福島県住宅生活協同組合　理事長　和合アヤ子　氏
一般財団法人大原記念財団 理事長（兼 大原綜合病院 院長）佐藤勝彦　氏
公立大学法人山形県立保健医療大学　理事長兼学長　前田邦彦　氏
国立大学法人福島大学　共生システム理工学類　教授　筒井雄二　氏

③学内評価者（４名）

医療研究推進戦略本部長、副本部長、医療研究推進センター長、医療産業連携部門長

（２）評価の区分

講座の活動における計画に対する達成度合いに応じて以下の区分により行っております。

S：優れている　（計画の 100%超）
A：評価できる、適切である（計画の 80～100%程度）
B：やや改善を要する　（計画の 60～80%程度）
C：改善を要する　（計画の 60%未満）

２　評価結果

評価者による評価の結果、大半の講座の研究活動、診療実績、教育活動については評価できる、適切であるとの評価をいただきました。

特に、講座の目的および計画に対して、どのような活動が行われ、どのような成果が上げられたのかを寄附者へ丁寧に説明すること、積極的に論文化に取り組むこと等の助言や、次年度が最終年度の講座に対しては、事業計画を完遂することへの期待が寄せられました。

講座名	評価区分	評価	主な意見
肺高血圧先進医療学講座	研究	S	・症例の解析や臨床所見、実験動物を用いた病態の解析など、多角的なアプローチによる肺高血圧の病態の解明および診断法の確立や予後の評価などに大変有益な知見が得られてきている。 ・海外学会での報告、論文報告について質及び量の面からも確実に出されており、国内、国外に積極的に配信されていることから、優れた成果が確認できる。 ・動物実験による基礎データの蓄積、その成果が十分に発信されている。 ・動物実験および臨床解析で得られた本講座の知見を、今後、どのような戦略で、肺高血圧症の治療や予防に結び付けていくか大変興味深い。 ・治療成績の向上と分子メカニズムの解明にどこまでアプローチできたのかを報告書に反映させてほしい。
	診療	A	・希少疾患である肺動脈性肺高血圧症に対しての診断の向上の為に福島県全体における本講座が寄与する影響は大きく、適切に診療されている。 ・潜在的な患者はある程度いると考えられるが、確定診断が難しく、実際の症例を経験することはそれ程多くないと思われる。県内全域に診療拠点（専門外来）を置き、体系的におこなうことは極めて有意義であり、潜在患者の掘り起こしや臨床的知見の集積にもつながり、重要な取り組みと考える。 ・県内の主要な病院に外来を設置するなど、症例数の少ない疾患を集める努力をしている。 ・専門外来を設置する意義を市民に説明し、その目的に即した活動の経過と結果の報告ができるよう実施してほしい。 ・次年度が最終年度となっており、本講座で確立された診療体制の継続が望まれる。
生活習慣病・慢性腎臓病（CKD）病態治療学講座	研究	S	・CKD や生活習慣病の実態解析において、福島 CKD コホート研究、特定健診コホートを構築し、研究基盤を確立するとともに、多角的、さまざまな実績が産み出されており、充実した研究が行われている。 ・コホート研究の着実な進捗、国レベルの指針、ガイドライン作成への参画と貢献、地域向け CKD 予防のための行政との連携、市民向けの啓発活動も積極的。 ・基礎研究と、研究成果の地域医療への応用がバランスよく遂行されている。新たなシステムづくりや遠隔医療への応用について今後の成果を期待したい。 ・CKD や生活習慣病の調査・解析をおこなう上で、福島県の地域特質についても踏み込んだ視点からの解析が期待される。 ・一般市民や社会貢献のアウトカムを考えた場合、その評価方法について検討すべき。
生体機能イメージング講座	研究	B	・（一財)脳神経疾患研究所に新たに設置される南東北創薬・サイクロトロン研究センターを前提とした先進的な取り組みと評価する。 ・新 PET 施設の開設準備と並行で総合南東北病院での研究を余儀なくされている中で PET 薬剤承認から 7 課題の臨床研究を開始している。引き続き新 PET 施設の開所準備に注力してもらいたい。

生体機能イメージング講座	研究	B	・寄附目的に沿った適切な研究活動が展開されており、それなりの研究成果を上げているものと認められる。 ・設置計画に対する見直し、改善策等をあらかじめ想定する必要がある。
医療エレクトロニクス研究講座	研究	A	・非常に実用的な課題を含む研究活動であり、大変有用な取り組みと思われる。 ・「脈波測定モニタ」の開発も実施。論文の発表も着実。 ・報酬系摂食制御機序の解明については、臨床的な応用が期待される。 ・摂食制御機序の研究は進んでいるが、脈波測定機についての報告がない。 ・研究成果が「脈波測定器」の開発にどのようにつながっているのか明確にしてもらいたい。
心臓病先進治療学講座	教育	A	・寄附目的に沿った適切な研究活動が展開されており、講演・講座の実施回数と参加人数を踏まえ、十分に効果を上げている。 ・学生、医師、コメディカル、一般市民を対象に、寄附目的に沿った適切な教育活動が展開されており、期待どおりの効果を上げている。 ・講演ごとに、アンケートを実施するなどして、参加者の属性や感想・意見などの取り込みは必要。また、講演等の主旨を理解したかどうかを検討する適当な尺度があれば、それを活用した調査も有効。 ・学生、医師、看護技師への教育ということではその教育効果をどう測るか、受講者の「高評価であった」との評価だけでよいのか、若干疑問に感じる。学生の通常授業の単位認定であれば出口の修業結果は明確であるが。 ・教育内容の記述、および教育効果の客観的評価などを含めることで、寄附講座の意義について寄附者にたいして報告するよう努めてほしい。
	研究	S	・睡眠呼吸障害（SDB）やその他の生活習慣病への心血管系からのアプローチは極めて学際的で、大変興味深い取り組み。多くの実績が生み出されていることは高く評価できる。 ・研究業績は、活発な研究成果を着々と積み重ねていることを示している。 ・今後も心血管領域における SAS 診療の普及ならびに、多面的な心不全診療に関する研究等を通じて、医療と社会に貢献いただくことを期待する。
	診療	S	・担当者との面談、講演会等を通じ、診療状況が適切に報告されている。 ・睡眠呼吸障害（SDB）にはさまざまな病態が含まれるが、一般には耳鼻咽喉科や呼吸器内科での診療が行われるので、そのような診療科との連携も望まれる。 ・SDB 診療がどのくらい利用されたのか、診療の効果の状況がどうなのかについて、適切な指標を用いて寄附者に対して説明してほしい。
先端癌免疫治療研究講座	研究	A	・世界的に競争の厳しい癌免疫療法の分野において、本学の関連各科を組織化し、集学的なアプローチに結び付けようとする極めて重要な取り組み。 ・論文 、学会発表と着実な進行。臨床試験の実施、他大学との連携もなされている。開発ロードマップによるスケジュール管理も適切。 ・医師主導治験開始においてはこれまで以上に密な連絡や情報提供等を希望する。 ・最終年度だが、さらに何らかの形での研究活動の継続が望まれる。 ・併用療法など免疫療法の新たな治療法については本学の役割、貢献を明確にしてもらいたい。WT-1 では胸腺癌対象の臨床試験が本学の業績か。 ・最終報告として、詳細な結果と成果の評価が必要。

低侵襲腫瘍制御学講座	研究	A	・診療科の枠組みを超えた連携や多数の人材の育成により、治療法の開発、診療の質の向上、有用な臨床データベースの確立などが図られている。 ・福島県の stageⅣ消化器癌のデータベースを完成させた点。対象疾患、参加施設、登録症例数、期間などを明らかにすべき。倫理委員会の承認状況も明示すべき。 ・掲載論文の編数、学会発表の件数が年次ごとに着実に増加しており、計画的な研究への取り組みがうかがえる。 ・ロボット支援手術の実施に関しては予定症例数を登録完了とあるが、手術を実施し、結果をデータベースに登録したということなのか読み取れなかった。 ・成果の詳細が示されていないため、次年度の計画達成が可能かどうかの判断がつきかねる。
プログレッシブ DoHaD 研究講座	研究	A	・臍帯血を用いた、間葉系幹細胞やその他の細胞の分離および解析のシステムが整備され、今後の DOHaD 研究の基盤として高く評価できる。 ・胎児期のバイオマーカー探索のための広域連携ネットワークを確立し、事業化への目途を確立することができた。今後これらを活用し、各分野における先端的研究の推進に貢献することを期待する。 ・具体的にどのような指標あるいは疾患に焦点をあてていくかを想定した試みまで踏み込んでほしかった。 ・データ収集プラットフォームの試作、収集は12件実施され当初の計画は完了と考えられるが、設置期間終了後、当研究成果の継続、展開はどのようになるのか。 ・論文は発表されているが、当初の設置目的の研究がおこなわれているのか報告書からは判断できない。
心臓調律制御医学講座	教育	A	・適切な教育活動が展開されており、期待通りの効果を上げている。 ・目的に沿って、活発に教育活動が行われてことは評価するが、参加人数や参加者の属性の把握や教育効果の評価がどのようにしてなされたかの記述がないことは大変残念。 ・講演ごとに、アンケートを実施するなどして、参加者の属性や感想・意見などの取り組みは必要。また、講演等の主旨を理解したかどうかを検討する適当な尺度があれば、それを活用した調査も有効。 ・教育内容の記述、および教育効果の客観的評価などを含めることで、寄附講座の意義について寄附者に対して報告するよう努めてほしい。 ・市民や医療スタッフ向けの教育なども検討してもらいたい。
	研究	S	・「不整脈」は、近年重要な循環器疾患としてあらためて注目されており、とくに、最新のデバイスを用いた、侵襲的な手技については、日々、多くのイノベーションが図られ、日進月歩の進化を示している。本講座における臨床研究、介入研究は、それらをリードする先進的なもので、極めて重要であり、実際、多くの実績につながり、高く評価される。 ・不正脈疾患に有効な治療法の開発に向け、精力的に研究が行われている。
	診療	A	・最新のデバイスを用いた、侵襲的な手技を含めた本講座における診療は極めて重要であり、実際、多数例の診療が実施されている点は高く評価される。 ・デバイス植え込み、カテーテルアブレーションとも多くの治療実績を上げている。
神経再生医療学講座	研究	A	・脂肪組織由来幹細胞を用いた急性期脳梗塞患者の治療および TMS などを用いた神経可塑性の誘導に基づく加療についての二本立ての体制にて、研究活動がなされている。とくに後者については、多数の論文公表がなされている。 ・論文公表などの実績においては、TMS などを用いた神経可塑性の誘導に基づく加療が圧倒的に多くなっているが、研究活動報告書にはこの研究についての具体的内容の記載が乏しいので、もう少し詳しい説明が必要。また、脂肪組織由来幹細胞を用いた急性期脳梗塞患者の治療について、5 例の治験が行われたので、その結果および経過についての報告・論文化が期待される。

神経再生 医療学講座	診療	A	・神経内科診療の地域連携システムを構築するという構想により、地域の診療レベルを向上させるという役割が果たせている。 ・神経内科の診療のレベルアップ、とくに会津地方での神経内科診療の充実に取り組んでおり、本講座の診療活動は、福島県内全域での脳神経内科診療の底上げに寄与している。 ・今後の活動として、病院での研究活動に加え神経内科医不足状況を鑑み診療も行うことや神経内科専門医育成の取り組みは高く評価できる。 ・具体的な症例の分析や本講座の研究活動で得られた知見を基盤とした臨床応用についても言及してもらいたい。
肥満・体内炎症 解析研究講座	研究	A	・講座設置初年度にもかかわらず、寄附目的にそった研究がおこなわれ、成果も出ていることを高く評価する。 ・本講座での研究成果の臨床応用やその後の方向性・ビジョン等について、もう少し言及してもよいのではないか。 ・当初計画に基づき順調に進んでいる。必要に応じて計画を見直すなど、適切な進捗管理を行ってほしい。
運動器 骨代謝学講座	教育	A	・本講座の設置目的に沿って、活発に教育活動が行われてことは評価するが、参加人数や参加者の属性の把握や教育効果の検証がどのようにしてなされたかについての説明がないことは大変残念。 ・効果の検証には、参加人数の把握および効果の具体的な評価が望ましい。 ・講演ごとに、アンケートを実施するなどして、参加者の属性や感想・意見などの取り込みが必要。また、講演等の主旨などを理解したかどうかを評価する適当な尺度があれば、それを活用した調査が有効。 ・県内全域での教育活動が計画されている点が評価できる。 ・当初の目的に沿った教育活動がなされるよう努めてほしい。また、教育効果の評価について寄附者や社会一般に対しても説明できるよう、適切な指標を用いて開示してほしい。
	研究	B	・骨粗鬆症は高齢者の ADL の維持に大きな影響を与え、適切な対応は健康寿命の延長に必須なものと思われる。骨粗鬆症については集学的に検討することは極めて有意義なものと考える。また、骨軟部腫瘍については、希少疾患であるとともに、その診断や治療には高度に専門的な知見が必要であり、全県的な診療体制の構築は非常に重要。 ・具体的な目標値などを含めた研究計画あるいは参加・協力が期待される施設などについての記載が必要。骨軟部腫瘍、とくに悪性腫瘍は、希少腫瘍であり、Foundation One CDx を導入し、遺伝子パネル解析をおこなっていくには、大学病院本院だけではなく、県内のがん診療地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院などとのネットワークの確立が必要。連携の具体的な像を示してもらいたい。 ・診療を主とした講座と理解するが、骨軟部腫瘍の研究の道筋を示してもらいたい。「新しい治療法の導入」の一段詳細化された記述が必要。
地域救急 医療支援講座	教育	A	・寄附目的に沿った適切な教育活動が展開されており、また、寄附者との情報交換の場を設け、今後の展開も協議できている。 ・寄附者の意向を理解し、社会ニーズに沿った教育活動が行われた。 ・コロナウイルス講習会の開催は時宜にかなった教育活動である。中学生に対する講習会も独自の取り組みとして評価したい。 ・中学生を対象に心肺蘇生講習会を開催されていることは大変重な教育であり、未来の医療人養成に繋がることを望む。 ・輪番体制強化に貢献しており、輪番運営に関する会議等での実績報告があるとよい。 ・救急医療に携わるスタッフに感染防止の教育を行うことを希望する。 ・教育の効果は見えにくいため、例えば高校にも教育に出向き、中学で経験した子供が蘇生法を身に着けているか確認してはどうか。 ・市内医療機関での初期研修医への教育等も計画してはどうか。 ・目的の「研修医の教育」を達成するため、定期的に研修医への教育活動を行うことが必要ではないか。

地域救急 医療支援講座	研究	A	・学会での発表が多くなされ研究活動は活発におこなわれている。 ・地域救急で得られたデータの解析の結果を年度ごとにまとめてほしい。 ・救急受け入れ困難症例の解析が今後の効果的な救急搬送システムを構築できることに期待する。
	診療	A	・福島市内病院での当直業務を通じて救急医療体制の充実に大きく貢献している。 ・臨床研修医の指導に期待したい。
地域産婦人科 支援講座	教育	A	・青少年に対する啓発活動が優れている。 ・性感染症の啓発に引き続き積極的に取り組んでおり、その成果に期待する。 ・いわき市と共催でキャンペーンを行い、最優秀賞作品の表彰を実施されたことは素晴らしい。 ・中学生、高校生対象の教育活動は素晴らしい。性教育の実践は高く評価したい。 ・教育の効果を実証するため、人工妊娠中絶や性感染症の発生動向を調べてもらいたい。パピローマワクチンの啓蒙をお願いしたい。
	研究	B	・卵巣癌の早期発見を目標とするマーカーの研究であり、成果を期待したい ・寄附目的に沿った適切な研究活動が展開されていることと思われるが、期待どおりの効果を上げていない。 ・研究について適切な報告が必要であり、現在の研究テーマが困難であるなら、新しい研究テーマの設定が必要。 ・研究の進捗を踏まえ、状況に応じた見直しを検討してはどうか。 ・教育活動の取りまとめも研究テーマになるのではないか。
	診療	S	・いわき地域の産科診療態勢の維持に極めて大きな役割を果たしている。 ・婦人科がんの早期発見、治療、安全安心な出産に積極的に取り組んでいることは評価できる。 ・多くの症例を診察しており素晴らしい。 ・診療活動は優れているため、豊富な症例から得られる研究テーマを設定することを希望する。 ・コロナウイルスの感染拡大で特に厳しい状況下にあるものと思われるが、地域医療のため尽力してもらいたい。
白河総合診療 アカデミー	教育	S	・評価は高く、期待以上の成果を上げている。 ・多岐にわたる教育活動がなされている。 ・恒久的な人材輩出を実現する研修モデルの確立を目指しており成果が期待される。 ・適切に教育活動が行われており評価できる。 ・教育の目標が適切に考えられている。 ・研修モデルを確立して多くの研修医を獲得することを希望する。 ・宣伝・広報の成果に期待したい。
	研究	A	・原著論文、学会発表数ともに充分である。 ・活発な研究活動がなされている。 ・研究成果については積極的に学会発表、論文化を行っている。 ・設置計画に沿った研究が行われていると評価できる。 ・国際的に通用する研究水準を維持している。
	診療	S	・勤務時間帯の救急車対応、他科からの診療依頼に対しほぼ断わることなく受け入れている。 ・診療実績が年々伸びている。 ・地域医療の充実に多大な貢献をしている。総合診療医の育成にも大きな成果をあげている。 ・入院、外来とも年々症例が増加しており、素晴らしい。 ・診療の科学的水準まで向上させているものと思われる。 ・救急応需率をさらに高めるため、地域との連携をさらに密におこなうことを希望する。

東白川 整形外科 アカデミー	研究	A	・慢性関節リウマチ患者の治療、骨粗鬆症の治療。近隣の医療機関との連携が良く、紹介患者が多い。 ・当初の研究目的は達成されている。 ・寄附者の期待にそって研究成果を出す必要がある。寄附者の意向を聞くことを希望する。 ・講座更新の中での新たな研究テーマを期待する。 ・研究目的に対する成果が明らかでない。 ・もっと早い段階で、計画の変更が必要だったのではないか。
	診療	A	・関節リウマチ患者の治療、骨粗鬆の治療と説明の徹底を。 ・診療実績は減少したが地域医療に貢献している。 ・地域での講演セミナーを積極的に実践している。 ・寄附者の意向を十分に把握することが必要。寄附者へ診療実績を報告し、寄附者の評価を受けることを希望する。 ・率直な問題提起がなされており、これらを踏まえた取り組みが今後なされていくことを期待する。
疼痛医学講座	研究	A	・難解な研究分野ではあるが、着実に実績を重ねている。 ・多職種での慢性疼痛患者への診療システムを構築し、研究成果を出している。 ・ペインマネジメントプログラムについては毎年 20 例以上の実績があり、学会や論文での発表がなされている。 ・理学療法士等、多職種で研究が進められ、人材が育成されている。 ・スタッフ教育を実施して、成果が挙がるように工夫している。 ・今後の研究計画が大まかすぎるので適切に修正することを希望する。 ・さらに症例を積み重ね、より良いプログラムとして完成させて欲しい。 ・研究の目的や方法を明確にすべき。診療とは異なるものが必要である。
	診療	A	・診療システムを確立させ、実績を積み上げている。これからも慢性疼痛診療のリーダーとして活躍することを希望する。 ・個々のニーズにあったプログラムの開発も行われている。 ・現在の社会情勢に影響されることも危惧されるが、研究活動を継続してもらいたい。 ・さらに症例を積み重ね、より良いプログラムとなることを期待する。 ・それぞれの職種にどのような良い効果が生まれたのかをまとめてもらうと価値が上がると思う。
周産期・小児 地域医療 支援講座	研究	A	・本講座の研究活動に即した取り組みがなされ、須賀川市及び周辺地域における周産期・小児医療の実態と問題点が明確になるとともに、蓄積された臨床データに基づき周産期・小児医療の向上につなげることができている。 ・診療支援を目的としており適切な研究内容となっている。 ・今後の計画も、当該地方の地域医療を充実させるためには必要不可欠であり、さらなる成果を期待するとともに、継続した研究を望む。 ・寄附者への情報提供の実績が記載されていない。寄附者への報告が必要。
	診療	A	・須賀川市及び周辺地域における周産期・小児医療を充実させるために大きく貢献している。 ・須賀川地方の医療供給体制に多大な貢献をしている。 ・寄附者に対して情報提供されたことが確認できない（記載がない）。寄附者の意向に沿って周産期医療を確保し、結果を寄附者へ情報提供すべき。 ・新型コロナウイルス感染拡大の中ではWebでの症例検討がさらに重要。
地域整形外科 支援講座	教育	A	・若手医師等に対する教育に積極的に取り組んでいる ・適切に教育活動が行われており評価できる。 ・地域の実情にあわせて新たな目標を定めて努力することを希望する。 ・医師確保の成果があがることを期待する。 ・スタッフや初期研修医、医学生などへの教育活動が行なわれるとさらに良い。 ・医師以外の参加者を増やす工夫があっても良かった

地域整形外科 支援講座	研究	A	・講座設立の目的は達成した。 ・治療成績を全国規模の学会で発表している。 ・最終年度に論文としてまとめられている。 ・研究において実績が著しい。 ・地域のニーズにそって適切に研究計画をたてることを希望する。 ・講座設置の成果をつないでいって欲しい
	診療	S	・手術件数が年度毎に増加している。 ・高度な治療レベルを確保し初年度から 3 倍増に及ぶ手術に対応するなど地域の診療体制の向上に大きく貢献している。 ・症例数が増加している点が評価できる。 ・更に向上する意欲が感じられる。 ・四肢外傷の診療レベルの向上を期待しているが、具体的に目標を定めて報告することを希望する。
外傷学講座	教育	A	・外傷学について広く一般にもアピールしている。 ・幅広い教育活動を展開している ・メディカルスタッフ、医学生、高校生、地域住民など幅広い対象に教育活動が行なわれている。 ・研修医等への教育活動において一層の成果を期待する。 ・医学生の実習がさらに増えることを望む。
	研究	A	・外傷のデータベースを構築し、それをもとに論文を作成している。 ・データベースを元に解析を行っている。 ・新たな画像診断法に取り組み、成果を上げている。 ・講座の更新がなされたことから、症例の蓄積により研究成果をさらに充実させて欲しい。
	診療	S	・診療レベルの高さを維持し、新たな評価法を生み出そうとしている点が優れていると評価できる。 ・手術件数や外来入院とも多数の実績となっている。 ・非常に多くの症例を診療している。 ・今後も質の高い外傷治療の提供を希望する。 ・診療体制が充実することを期待する。
消化器内視鏡 先端医療 支援講座	教育	A	・教育活動により専門医を育成している点が優れていると評価できる。 ・内視鏡専門医の育成に成果をあげた。 ・寄附目的に沿った適切な活動が展開され、概ね、期待どおりの成果を上げたと考えられるが、内視鏡医の育成状況が不明である。 ・講座が終了しても成果が継承され、内視鏡診療のレベルが維持されるよう期待する。 ・内視鏡医のレベルアップの実態が分からない。 ・若手への教育を充実させてもらいたい。
	研究	S	・多くの優れた内視鏡医を育成し、多くの研究業績を残した点が優れている。 ・機器開発から治療法の開発まで先進的な取り組みである。特にトレーニングキットの製品化は特筆すべき成果である。 ・厚生労働科学研究を実施し、ガイドラインの作成に参画している点が評価できる。 ・活動成果の継承を期待する。
	診療	A	・多数の内視鏡治療を行っており成果を上げている。本県の内視鏡診療のレベルアップに貢献。 ・多くの症例を検査・治療した点、特に先端医療に数多く携わってきた点は評価できる。
スポーツ 医学講座	教育	A	・スポーツ選手のメディカルチェックを定着させた。 ・県内各地で講習会を行っており、適切に教育活動が行われている。 ・理学療法士や医師を対象にした講習会が評価できる。 ・スポーツの現場に入り、更なる教育活動が行われることを期待する。 ・学校の教師等を対象にした講習会が行なわれれば、さらに効果が上がると思われる。

スポーツ 医学講座	研究	A	・現場でのメディカルチェックの意義を高めた点が優れている。 ・多くの学会発表を行っており評価したい。 ・コンスタントに論文が発表されている。 ・今後の活動方針を明確にすることを希望する。 ・論文化につながっていくことを期待する。
	診療	A	・スポーツ外来を定着させた点が優れている。 ・スポーツ外来として 2 病院で 1300 名の診療にあたった。 ・専門的な治療法を導入している点。スポーツ外来を確立しているが評価できる。 ・数値目標をあげるなど具体的に活動計画を立てることを希望する。 ・講座設置の更新がなされたことから引き続き診療内容を充実させていくことを期待する。
外傷再建学 講座	教育	S	・医師の獲得、見学者の受け入れ等、確実に成果を上げているものと認められる。 ・スタッフの資質向上がなされた。 ・継続してメディカルスタッフの学会発表につなげている。 ・メディカルスタッフとのカンファレンスが充分行われている点が評価できる。 ・地域住民への教育活動にも取り組んでおり長期的な医師の確保につながることを期待する。 ・医学生や初期研修医への教育が少ない点が残念である。
	研究	S	・研究計画、目標に沿った研究活動が展開され、対外的にもその存在感が認められるようになっている。 ・メディカルスタッフの育成と活発な研究活動が優れている。 ・海外学会での発表などに積極的に取り組んでいる。 ・英文の論文がもう少し増えると良い。
	診療	S	・質の高い外傷診療を提供している。 ・多数の診療実績を積み重ね地域医療に貢献している。医師確保につながっている。 ・非常に多くの症例を診療しており、地域貢献も特筆される。
多発性硬化症 治療学講座	教育	A	・活発に教育活動がなされた。 ・様々な機会に最新情報の提供を行っている ・内科医や患者等、様々な対象に教育活動を行っている。 ・引き続き啓もう活動を継続して欲しい
	研究	S	・論文化や学会発表が多数なされているところが優れている。 ・国際レベルの研究が行われている ・設置計画に沿った研究が行われていると評価できる。 ・国際的な治験に参加しており、多くの英文論文が出されている。 ・活発な研究が続けられている。 ・新しい治療法の開発に貢献することを期待する。
	診療	S	・地域のみならず全国規模での診療実績の上積みが計画されているところが優れている。 ・引き続き広域の診療ニーズに応えている。 ・全国からのコンサルに対応し、症例の診断にあたっている。 ・きちんとした診療実績である。 ・神経難病を克服するために新しい診断・治療法の開発を希望する。 ・有効な治療につながっていくことを期待する。
災害医療 支援講座	研究	A	・地域のニーズに適応した医療を提供することを希望する。 ・今後も被災地域の診療体制に構築に貢献することを期待する。 ・災害医療に関する研究が、全国規模の学会でもう少し発表することを期待する。震災後 10 年の総括をするような研究をまとめてもらいたい。
	診療	A	・被災地で医療活動を行っていることが優れている。 ・被災地の医療ニーズに沿った診療活動が行われている。 ・診療活動が計画通り行われており評価できる。 ・必要に応じて、計画を見直すよう希望する。 ・地域住民の医療ニーズに耳を傾けて活動を行うことを希望する。 ・引き続き被災地復興への貢献を期待する。

３　評価に対する講座の対応

評価者より出された助言等を活動に生かすため、各講座に対して評価をフィードバックしております。助言等に対する各講座の主な対応策は、以下のとおりです。

＜肺高血圧先進医療学講座＞

・治療成績向上に向けては、診療活動として早期発見、介入に努めている。また、早期発見につながるバイオマーカーについて、現在更なる検証を行っており、肺高血圧メカニズム解明については臨床サンプルや動物実験にて得られた知見を今後も論文報告する。

・寄附講座閉設後も、現在の診療体制維持に努める。また、医療従事者への啓蒙だけでなく、市民対象の活動も考慮していきたい。寄附講座設置期間、それ以前の患者の予後を比較し、最終年度に報告する。

＜生活習慣病・慢性腎臓病（CKD）病態治療学講座＞

・御指摘・御助言いただいた内容を参考に、引続き研究を推進し成果を発表していきたい。

＜生体機能イメージング講座＞

・一定の研究基盤（PET プローブ導入と新 PET 施設整備）は整ったが、寄附者の所属機関内での臨床部門との連携研究が十分でなく、更新された講座ではいかに連携して臨床研究を促進するかが最も重要になってくる。
寄附講座の構成員を MD に変更するか、新たに MD の構成員を追加することを寄附者に要望している。

＜医療エレクトロニクス研究講座＞

・脈波測定器に関しては技術的にほぼ完成しており、現在、臨床応用に関しての検討を行っている。今後、進捗状況、進展について細かく報告する。

＜心臓病先進治療学講座＞

・学生には講義におけるミニテストや卒業試験などで学習効果を確認、また、医師会などの講演会ではアンケートを実施している。

・今年度はコロナの影響もあり、直接的な市民・医師への啓蒙・教育活動が困難となったため、1)日本循環器学会における WEB での市民公開講座や 2)福島県医師会での TV 放送、3) 検査技師会での教育活動・WEB 講演などメディアや WEB を活用した教育および啓蒙活動に取り組んでいる。

・10 年間の教育・啓蒙活動を総括できるように進めていく。

＜先端癌免疫治療研究講座＞
・胸腺癌を対象としたWT-1ペプチドパルス樹状細胞ワクチン療法を準備して、PMDAにも相談をして治験準備が整っており、企業からの資金的支援を待つところまで進展した。
・WT-1ペプチドパルス樹状細胞ワクチン療法について医師主導治験を周到に準備してきており、資金提供を待つ状態になっている。

＜低侵襲腫瘍制御学講座＞
・目的と研究内容、さらに研究成果の流れを明確にし、次年度の最終報告ではその整合性を取って報告する。
・研究の見直し、体制の見直しについては、これまでも適宜行っていたが、定期的な評価期間を設けて行なっていきたい。毎月進捗状況のチェックを行い、問題があれば適宜対処していく。
・ステージ4の消化器がんデータベースに関しては別途報告書を作成し、対象、参加施設、登録数、期間、倫理委員会の承認などについて公開している。

＜プログレッシブDoHaD研究講座＞
・必要な検体の提出は予定通り行えたと考える。今後、本研究の結果は実臨床の場で検討していきたい。

＜心臓調律制御医学講座＞
・教育効果の評価にあたり、具体的な効果判定として、アンケートや理解度の具体的な評価方法等を検討していく。また、市民や医療スタッフ向けの教育活動についても、実施を検討していく。
・臨床での問題点の評価および診療計画へのフィードバックや、診療計画および実績評価についての具体的な数値設定を含め、報告に努めていく。

＜神経再生医療学講座＞
・脂肪幹細胞の研究を施行し、倫理的にシャム手術による2群比較ができないため、治療効果を科学的に検証する事はできなかったが、その事を考慮した上での計画であり本研究の目的としては達成したと判断する。安全性の確認も目的の一つで、この点は確認できた。
・脂肪幹細胞移植は特殊な技能と人手が必要な手技で、寄附講座としてのサポートが無いと実施できなかったと考えている。特に、厚生局への書類の申請、現場の実施などに非常に時間を要し、臨床の忙しい一般病院だけでは実施できないと判断する。

＜肥満・体内炎症解析研究講座＞
・指摘の点を注意し、今後の活動に生かしていく。

＜運動器骨代謝学講座＞
・フィールドワーク的活動が必要なため、COVID-19 感染が鎮静化しないことには開始できない状況。
・COVID-19 感染が鎮静化したら、各医師会に協力を依頼し、骨粗鬆症患者のデータベース構築を開始する。

＜地域救急医療支援講座＞
・令和 2 年度には直近 3 年分の福島市救急搬送困難事案に関するデータを作成し、輪番運営会議で報告を予定している。
・高校への心肺蘇生講習会について、検討する。
・引き続き臨床研修医の指導、データ解析を行い、成果を目に見える形にしたい。

＜地域産婦人科支援講座＞
・今後も、いわき市の小・中・高校への啓発活動は大事にしていきたい。
・コロナ禍で県をまたいでの里帰り分娩の受け入れは見合わせたが、県内からのものは受け入れた。状況を見ながら、積極的に受け入れをしていきたい。
・大学、看護学校生を対象とした子宮がん検診を実施し、良好な成績を得た。今後とも実施していきたい。
・臨床から得られる情報を基にした研究テーマを見つけ、実行したいと考えている。

＜白河総合診療アカデミー＞
・医学生、研修医、専攻医に対する教育を、ニーズを把握しながら、今後も継続して熱意をもって取り組んでいく。
・恒久的な人材輩出を実現できるようにさらに研修モデルの確立を目指していきたい。
・本邦における総合診療、プライマリ・ケアに関するエビデンスの国際的発信を目指し、引き続き、研究活動を推進する。
・地域医療の推進と総合診療医の育成を引き続き進めていく。また、当アカデミーの活動を当該地域以外の地域にも広報するように努める。一方で、現在の診療レベルを維持・発展するためには、当アカデミーのマンパワーを確保する必要があり、引き続き当アカデミーへのリクルート活動を展開していく。

＜東白川整形外科アカデミー＞
・「東白川地区の整形外科診療体制の再建」という寄附目的に沿った、過去 5 年間の研究で明らかになった問題点の解決を進め、研究成果として発信していく。
・過去 5 年間の研究成果で得られた知見をもとに、「診療体制の再建」から「診療体制の維持・拡充」のフェーズでの研究を進める予定である。
・同地に派遣された若手整形外科医師の生涯教育という観点から、若手教員の研究・発表・論文執筆を指導する体制を構築し、若手医師にとって魅力的な派遣先となるよう努めていく。

・高齢化と人口減少の進む中山間地域である東白川地区においては、患者数の大幅な増加は困難である可能性が高いが、派遣された医師の能力を生かし、受診先として魅力的な診療体制を構築する。

＜疼痛医学講座＞
・症例を蓄積して、科学的に有用性を証明するとともに、医療経済学的な有用性も示していきたい。
・現時点では大まかな計画になっているが、進捗状況によって適宜研究計画を見直していく。研究に関しては、より明確な目的・方法にのっとって進めていく。
・医師以外のスタッフによる解析、それぞれの視点からの考察を今後進めていく。

＜周産期・小児地域医療支援講座＞
・今後も須賀川地方の周産期・小児地域医療について、医療統計と受療動向を調査・解析し、同地方に対する適切な診療支援を行っていく。
・須賀川地方の基幹病院に引き続きご協力をお願いして周産期・小児医療の受療動向を調査し、医療体制の向上に努めたい。
・今後も基幹病院と連絡を密にして、望まれる診療援助体制を計画していく。
・インターネットを活用した診療支援や勉強会を検討していく。

＜地域整形外科支援講座＞
・医療スタッフ向けの講習会、大学と協同した若手手外科医のワークショップを計画している。
・地域のニーズに沿って、新講座で手外科・四肢機能再建に特化した研究活動、治療を継続する。

＜外傷学講座＞
・Web 開催など、新しい形の教育活動も模索していく。
・研究成果を生かし、更新後の期間も研究活動を継続していく。

＜消化器内視鏡先端医療支援講座＞
・内視鏡医の技量向上、優れた内視鏡医育成のために、福島県における日本消化器内視鏡学会・内視鏡専門医/指導医、日本門脈圧亢進症学会・技術認定医（内視鏡的治療）をさらに増やしていきたい。
・設置計画に沿った研究活動が展開できたと考えている。今後、厚労省の班会議にも参加し、さらなる研究活動を進めていきたいと考えている。また、トレーニングキットの製品化により、難度の高い胃静脈瘤内視鏡治療のできる内視鏡医を増やすことで、一人でも多くの胃静脈瘤患者を救命できればと考えている。
・今後も高度な内視鏡治療をガイドラインに沿って安全かつ効果的に行いながら、内視鏡医の育成に尽力したい。また、今後は胃がん検診にも携わり、福島県の胃がん撲滅に向けて、微力ながら貢献できればと考えている。

＜スポーツ医学講座＞
・新型コロナ感染防止により検診の方法に変化あり、得られるデータが今後変わってくる可能性がある。その結果を見て、今後の研究計画の調整を行う。
・具体的な目標値をあげ、継続して活動していく。

＜外傷再建学講座＞
・医学生や研修医が参加できるようなセミナーを組んでいきたい。
・英語の論文作成に力をいれていく。
・外傷の新たな治療方法を取り入れていきたい。
・診療成果を地域に周知し、存在をアピールしていきたい。
・寄附者に報告をする機会をつくりたい。

＜多発性硬化症治療学講座＞
・研修医、神経内科医や眼科医、患者家族、社会など様々なレベルで教育活動を展開していきたい。
・教育、啓蒙活動の推進に引き続き努力し、新型コロナウイルスの蔓延を踏まえてWebなどでの教育活動も充実させていきたい。
・日々の診療にインパクトを与える研究を展開し、論文や学会での発表を積極的に行うことを続けていく。
・全国規模で診療実績を蓄積して広域の患者さんの医療ニーズにこたえていくべく、診療協力を行っていく。
・視神経脊髄炎やMOG抗体関連疾患の新規治療法を開発中であり、推進していく。

＜災害医療支援講座＞
・ミーティングにおいて被災地の診療ニーズや受療動向などの課題の抽出や、今後の研究活動の計画について意見交換を行う。
・設置計画に沿った研究となっているか等、継続的に研究計画の見直しを行うと共に、十分な成果が得られているか検証を行う。また、所属医師の研究成果について、今後も報告書の作成を行い、広く情報提供を行う。
・ミーティングにおいて被災地の医療ニーズに係る情報交換を行うと共に、適切な計画へ見直しを図る。また、個人情報の適切な取扱いについて、マニュアルの配布や注意喚起を行い、周知徹底を図る。